

「博士課程教育リーディングプログラム」中間評価結果

機関名	慶應義塾大学	整理番号	A03
プログラム名称	超成熟社会発展のサイエンス		
プログラム責任者	長谷山 彰	プログラムコーディネーター	神成 文彦

(評価決定後公表)

(総括評価)

計画どおりの取組であり、現行の努力を継続することによって本事業の目的を達成することが期待できる。

[コメント]

リーダーを養成する学位プログラムの確立については、5年間一貫の学位プログラムMMD教育システム（プログラム課程において、最初の2年間で主専攻修士課程、次の1年間で副専攻修士、最後の2年間で主専攻博士課程の学位を取得するシステム）の中で文理融合教育プログラムが効果的に機能し、十分に成果があがっている。

産学官民参画による修了者のグローバルリーダーとしての成長及び活躍の実現性については、グループプロジェクト演習（GPE）やコースワーク等で第一級の教員と緊密に議論できる体制が整えられている点、また、産業界、行政体との緊密な連携によるメンタリング教育環境が整備されている点は評価できる。

グローバルに活躍するリーダーを養成する指導体制の整備については、海外インターンシップへの全員参加や海外在住メンターによる遠隔授業などにより、外国人学生・教員との関わりがシステム化されていること、共通科目の多くが英語により開講されていること、グローバルな教育研究・生活環境が確保されていることなど、十分な指導体制が整備されていると判断できる。

世界に通用する確かな質保証システムについては、本プログラムにおいてMMD教育システムのもと学生に厳しい学修・経験を要求している点からも、世界に通用する極めて優秀なリーダー養成が期待できる。

優秀な学生の獲得については、学生数は定員数を満たしていないが、学内の文系理系の両方からの志望者を得ていること、また、厳しい選抜を経てプログラムに相応しい学生が選抜されていることは評価できる。今後の広報活動、リクルート活動により、更に多くの学生を得る事が望まれる。

事業の定着・発展については、学長の下に設置されたボード会議、プログラム委員会が有機的に連携し、プログラムの進行具合等に関して、現状分析、問題等が継続的に執行部に伝えられる仕組みが確立しており、今後とも、この仕組みの継続が求められる。